

平成26年度ヨコハマ市民まち普請事業
1次コンテストを開催しました



6月21日(土)、西地区センターで開催されました。今年は7グループから提案がありました。いずれもアイデア満載で力のこもった提案の発表があり、5グループが2次コンテスト対象提案として選考されました。来年2月1日(日)の2次コンテストでも選考されると、地域の皆さんの念願である施設整備がかなうこととなります。



平成26年度1次コンテスト結果

提案名称	グループ名	区	選考結果
cafe発〜こどもとつくる笑顔いっぱい楽しいまち〜	洋光台にコミュニティカフェをつくる会	磯子	通過
女性たちの笑顔が活きる「出会いをつなぐ商店会」計画	すすカフェ準備委員会	金沢	通過
カサコ 一丘の街の地域の軒下/世界の軒下	カサコプロジェクト実行委員	西	通過
青葉区にリユース・コミュニティを整備する	特定非営利活動法人Waveよこはま	青葉	—
地域の芸術文化を振興するアーティスト拠点整備	アートカフェ&工房を創る会	緑	—
美晴台内道路の愛称入り案内板と複合コミセン整備事業	美晴台自治会助け合いグループ	港南	通過
矢向・江ケ崎 歴史資料室の建設と世代間交流の場作り	矢向・江ケ崎 歴史資料室を作る会	鶴見	通過

まちづくりイベント
「まちづくりびと 全員集合！」

26年度1次コンテスト通過グループによる中間報告の場である活動懇談会、25年度に整備したグループの成果報告会、そしてまち普請事業経験者や、まちづくりに関心のある市民等との交流会、この3つを合わせた「まちづくりびと 全員集合」を9月27日(土)に開催します。まちづくりのエッセンスがたくさん詰まった一日で、多くの方々と交流することのできる場です。ぜひ、ご参加ください。



ヨコハマ市民まち普請事業とは…

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの広がりをつくることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のホームページでご覧いただけます。

まち普請 検索 クリック

事前相談も随時受付中!

まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

《情報提供のあて先》

横浜市都市整備局 地域まちづくり課

Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、ヨコハマ人・まち 検索 クリック

平成26年7月発行

ヨコハマ人・まち
-まちへ人がまちをつくる-

vol. 45

発行: 横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641 Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

取材・編集: NPO法人 アクションポート横浜

TEL / FAX 045-662-4395 Email: info@actionport-yokohama.org

1P~3P 学生必見! まちを知ると、まちを好きになれる

4P
・平成26年度ヨコハマ市民まち普請事業
1次コンテスト
・まちづくりイベント「まちづくりびと 全員集合！」

学生必見!

まちを知ると、
まちを好きになれる

いろいろな地域から「若者と一緒にまちづくりをしたい。若い人にも関わってほしい」という要望があっても、学生をはじめとする若者には地域に関わるきっかけが、あまり多くはありません。

学生ならではの視点で地域に関わることで地域にも刺激になり、学生にとっても「地域に関わるって面白い!」と変化も生まれています。

学生だからこそできる、まちづくりもあります。一步踏み出して、まちづくりに参加してみませんか。



《カナカツ》

カナカツ(金沢区青少年の地域活動拠点)は、地域の青少年(小~高校生)が気軽に集える居場所です。

ワイワイおしゃべりしたり、イベントがあったり、ゆっくりと勉強できるスペースもあります。参加するみんながつくっていく場所です。

横浜市金沢区洲崎町2-6アイワパークサイドビル1階

Tel & Fax : 045-374-4035

《カフェ・デラ・テラ》

戸塚区の善了寺を拠点に、地域、学生、お寺が協力し、人や自然とのつながりを取り戻すためのスローなムーブメントを発信しています。

横浜市戸塚区矢部町125
yan0348@gmail.com

《カナカツ》子どもたちの居場所



イス塗りワークショップの様子

◆なぜ、カナカツに大学生が関わったか？

カナカツを運営している認定NPO法人コロンブスアカデミーは、運営にあたって、大学と連携して地域を盛り上げていきたいと考え、協力を依頼。横浜市立大学学術院・国際都市学系まちづくりコース・三輪ゼミが地域とNPOのつなぎ役として活躍することになりました。

学生が最初に行ったのはアンケート調査でした。子どもたちは放課後どんなところで過ごすのか、カナカツには何が欲しいかなどのニーズを把握し、建物の設計に反映するとともに、カナカツのオープンもアピールしました。

次に取り組んだのが、スペースづくりです。カナカツが入っているビルは、もとはお好み焼き店とカラオケ店という大人の場所でした。それを子ども向けの場所に変えるために、最初は子どもたちと一緒に明るい色に椅子を塗り直しました。次に、取り壊す予定の壁に思いっきり落書きをしたり、リニューアル後の新しい壁には顔文字のかわいいペイントを施しました。その結果、子どもたちにとって居心地の良い空間を誕生させることができました。

これらの取組の際、学生たちは地域の皆さんと積極的に交流し、信頼を得ることで、最初はイベントへの参加だけだった地域の方が、今では運営側として参加・協力してくれるようになりました。



「知り合いがどんどん増えていって、たくさんの方々に助けてもらいました」
(横浜市立大学・秦さん)

このように学生が間に入ることで、「カナカツ」が自然と地域に受け止められるようになりました。

◆カナカツは、学校と家以外のかけがえのない場に

今、カナカツは地元の大人たちに見守られ、多くの子どもたちの集う場所になっています。「子どもたちにとって、学校と家だけでは窮屈になってしまうこともある。学校でも家でもない“第三の場”になればと思います」(コロンブスアカデミー事務局長 福島さん)

NPOと地域、そして学生が連携して、子どもの居場所をつくっていく試みは、三輪ゼミの学生に代々引き継がれ、今も継続しています。

「自分たちで企画して、先生たちや地域の方々からアドバイスをもらいつつ実践しています」
(横浜市立大学・高柳さん)



学生たちの中には、「カナカツに関わって、<地域って面白い>ことに気がきました」という人が多いそうです。

福島さんはこう言います。「地域にとって学生の存在は、学生が考えるより大きいと思います。子どもたちにとってはお兄さん、お姉さんだから、人気があるし、地域の町内会からも信頼されています。カナカツが地域から見守っていただける関係を築けたのは、学生の活躍があってこそです」

《カフェ・デラ・テラ》 家庭と職場以外の第三の場所

はじめは7年前、戸塚駅西口商店街が再開発で大きく姿を変えていくのを見ていた善了寺の成田住職は、まちの記憶がすっぽり消えてしまうことや、地域が分断されてしまうことに危機感を持ちました。「もともとお寺というのは地域の人をつなぎ、多様な人を受け入れてきました。地域が激変する中で、改めてお寺の役割は何かと考えたときに、せっかく地元で大学があるから、一緒に考えられないかと、明治学院大学国際学部・大岩ゼミに働きかけました」

そこで、お寺に学生の集まれるスペースをつくり、学生と一緒にヨガをはじめたり、夜にはバーを開いたりという活動を重ねて、様々な人が集える場である「カフェ・デラ・テラ」が生まれました。「人には、家庭と職場以外の第三の場が必要だと思います。昔はお寺がそういう場所だったので、その場所を再生させたという感じですね」
(成田住職)

◆報告会で、ぐっと地域に浸透

カフェ・デラ・テラの活動の中心は学生です。最初は成田住職からスタートしましたが、今ではゼミの活動ではなく、自然にスタッフとして集まってきます。平成26年度の担当は4年生の今井さん。最初は参加者の一人でしたが、地域にもっと関わりたいと、3年生から中心メンバーになりました。

今井さんはいろいろなアイデアを出し、それを実現していきます。たとえば肉なし餃子パーティや廃油を使ったキャンドルづくりなど。そして戸塚商店街サポート事業として行った冬至のキャンドルナイトの活動報告会では、「戸塚が好き、という学生がいるとは思わなかった」と地元の大人に感動を与え、地域の輪がさらに広がりました。

「地域の活動は、自分たちがやりたいことをいろんな大人がサポートしてくれます。これは大学やサークルではできません」
(明治学院大学・今井さん)



今井さんの考えが多くの学生にも伝わり、「次はこれをしよう」というアイデアが出るようにもなりました。

商店会は、「学生たちは地域活動からいろんなことに気付き、人間力を養うことができると思います。その活動の姿が、商店会員に刺激を与えてくれて、地域が学生たちの活動で活性化してきています」(とつか駅前商店会 藤谷会長)と、学生効果を歓迎しています。

人をつなぎ、受け止める空間が、カフェ・デラ・テラから地域に広がっています。

今回、関わっている学生たちは、地域にとっては「若者」であり、「よそ者」です。「地域の方々が地域に関わるきっかけを提供できるのも、学生だと思いました」(秦さん)と言うように、若者・よそ者が地域をつなぎ、刺激を与えています。また、彼らは「地域を知って、もっと関わりたいくなった」と言います。そのためには「学生が地域に関わるきっかけが、もっと多くあればいいと思います」(今井さん)。

「先輩方から引き継いだまちへの関わりをさらに形にしていけるように、頑張ります」(高柳さん)という頼もしい言葉も聞かれます。学生の皆さんのまちへの関わりで、横浜はさらに面白くなりそうです。



廃油でキャンドルづくり

